

12月3日～9日は障がい者週間

みんなで考える わたしたちに今できること

2人は耳が聞こえないため、手話を使って会話をします。聴覚障がい者は見た目だけでは聞こえる人との違いがありません。手話で会話をしないと、耳が聞こえないと周りに理解してもらえないことも多いのです。

本特集では、それぞれの障がいの「特性」についてお話をします。みんなが暮らしやすいまちにするために、障がいのことを理解し、私たちにできることから始めてみましょう。

門真市身体障害者福祉会
ろうあ部会 会長
岩本みゆきさん

健康者と同じ学校に通い、高校生になってから手話を学び始める。

受け取る情報に 差を感じることも

岩本さんの想い

手話を全く知らない人達に「なんの話？」と聞いても「あとで」と言われたり、長い話を短くまとめて話してもらうことがあったり、何度も聞くと迷惑だと思って話を理解しているふりをしたり、情報不足になりがちです。

私は大人になってから手話を学びました。手話を全く知らない人とのコミュニケーションは少し大変ですが、手話だと一瞬で話が通じたことにとても感動したのを覚えています。手話がもっと普及して、いつでもどこでも手話で会話ができるようになればうれしいです。

＊手話にまつわる楽しかったエピソード＊
ろうあ部会と手話サークルくすの木のクリスマス会に、友人と2人で変装して手話歌を歌ったこと。



門真市身体障害者福祉会
ろうあ部会 事務局長
長宗政男さん

4歳の時に髄膜炎にかかり、服用した薬の副作用が原因で耳が聞こえなくなる。

コロナ禍の今だからこそ 知ってほしい

長宗さんの想い

聴覚に障がいがある人は、口の動きを見て人の話を聞き取ります。ですが、コロナ禍ではマスクで口元が見えないため、何を言っているのか、声を掛けられていることすら分かりません。店先でのレジ対応で「無視されている」と店員さんに誤解され、お互い嫌な気持ちになったこともありました。

話しかけても反応がない人がいたら、「もしかしたら耳が聞こえないのかも」と想像してみてください。相手の人を想像する思いやりの気持ちを持てる人が1人でも増えればいいと思います。

＊手話にまつわる便利なエピソード＊
駅のホームや建物の窓越しに友達と会話ができること。

かんたんな手話をおぼえましょう

ありがとう



手の甲の上に利き手をのせます



のせた手を上にあげます

こんにちは



利き手の人差し指と中指を伸ばして顔の中央に立てます



人差し指を向かい合わせ、同時に曲げます

ヘルプマークをご存じですか

◀外見から分からなくても、援助や配慮を必要としていることを知らせるマークです。

▶裏面にシールを貼り、「私は耳が聞こえません。筆談での対応をお願いします」といった必要な情報を記載することができます。



電車・バスの中では座席をお譲りください

外見では健康に見えても「疲れやすい」「同じ姿勢を保つことが困難」といった人がいます。優先席に座っていても、援助や配慮を必要としていることを理解してください。

必要な人にはヘルプマークを配布

ヘルプマークは障がい福祉課、健康増進課、南部市民センター、こども発達支援センターで配布しています。

※数に限りがあります

